

# 公園をみる・観る

## = ビオトープのスイレン =

毎年、葦の会主催行事「夏休み子ども早朝観察会」が近づくとメンバーたちは何度も公園を歩く。公園の自然は毎年同じではない。園の外の状況を敏感に反映し園内の生き物も毎年違う。常連の気配が消えていたり、新顔が来ていたり、「お久しぶり！」と声を掛けたくなるようなものもいたりしてなかなか面白い。今年はどんな生き物が顔を見せてくれるか、どんな話をしてくれるか、メンバーは心を弾ませながら、生き物の声を拾い集め、生活を観て廻る。そしてこの感動を、観察会に参加する子どもたちにも感じて欲しいと精一杯の努力をする。..

観察コースにあるビオトープは、私見ながら一番の見所だと思っている。ビオトープの空中から、水面から、地中からいろんな生き物が絶えず入り込み、気ままに生活したあと、スーッと出て行く。オオアカウキクサやタヌキモなどがいい例で気のむくままにビオトープを出たり入ったりしている。かつてはメダカもいたが、カダヤシとの勢力競争に敗れ姿を消した。いろんな経緯を持つビオトープだが、今はスイレンの白やピンクの花で華やかに彩られている。日本に自生するスイレンは未草（ひつじぐさ）と呼ばれる一種のみだそうだ。スイレン属スイレン科の水生多年草で未の刻（午後2時ごろ）に咲く事からの命名というのが本当は朝咲いて夕方閉じる。学名のニンファエア (Nymphaea) はギリシャ神話の水の精ニンフに由来するらしい。英雄ヘラクレスに捨てられたニンフはナイル川に身を投じスイレンになったのだそうだ。ドイツやヨーロッパではスイレンの花を摘もうとすると魔物によって水中に引き込まれるという伝説もあるという。酷暑の真夏のビオトープ、思いがけず怪談めいた話になったがスイレンを漢字で書くと睡蓮となり、なんだか眠たくなってきた。これも睡蓮の魔力かな？ (土×土) ..

## Kさんの、あんちどりこんちどり

体の大きさはスズメくらい、尾羽の長さは何とその3倍も、あるという、懐れのサンコウチョウに徳佐の林の中でついに、出会いました。目の回りと嘴は鮮やかなコバルトブルー。..  
..一瞬のことで目のアイリングは見えませんでした。..  
..声で、ツキヒホシホイホイホイと囀り、長い尾羽をひらひらさせながら頭の上を飛んでいきました。ツキヒホシ（月日星）と鳴くから三光鳥と呼ばれるそうです。..  
..お腹は白く、全体は黒っぽい紫色をしています。夏鳥として日本に来ますが、秋に南へ帰って行く時には、渡りに邪魔になる長い尾を自分で抜いて落としていくそうですよ。..  
..秋になって林の中をさがしたら長い黒紫色の羽が見つかるか、もしれませんか。..



riggs